

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	日常的な授業改善による確かな学力の定着と向上をはかる。 ・基礎、基本の徹底（読み・書き・計算は系統的に確実に） ・対話的、主体的な深い学びを目指す。学びに向かう力、人間性等の涵養を図る。 ・指導と評価の一体化（年間指導計画と評価規準の改善）	中間評価		最終評価	
		学習規律の徹底 ・態度、発言、話し合い、学習用具、机上整理など 家庭学習の習慣付け、自学自習				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学9割ほどの児童が学習に対して意欲的に取り組んでいる。 学積極的に読書活動に取り組んでいる。 学音読に意欲的である。 学漢字を丁寧に書こうとする意欲が高い。	・文章中の促音や濁点の抜けが見られる。 ・発声の際の音量が小さい。 ・てにをはの使い方に課題が見られる。	・文字の表記の練習をする。 ・国語以外でも声を出す練習をする。		
	算数	学既習のたし算引き算の計算を暗算ですぐに答えられる児童が7割ほどいる。1割はまだ指を使って計算をしている。 学たし算の筆算で位を揃えてノートに書き、順序よく計算することができている。	・筆算の位取りや書き方がわかっていない児童が3割ほどいる。 ・繰り上がりのあるたし算の筆算は、繰り上げることを忘れ、計算ミスをする児童が1割ほどいる。	・筆算の書き方、やり方を継続して練習する。		
3	国語	学区学力調査の結果から、4項目については区の平均よりも正答率が高いが、「話す・聞く能力」「読む能力」については正答率が低い。 学基礎的な力は身に付いているが、活用力は区の正答率や前年度の校内正答率よりも低い。記述式の問題の正答率は全国平均を4%、区平均を5%上回っている。	・人の話を聞くことが難しい。 ・文章を間違えずに正しく音読したり、内容を読み取ったりすることが難しい。 ・字形の整わない児童が多い。	・何の話題についてなのかを提示してから話を始め、目的をもって大切なところに気を付けながら話を聞くことができるようにする。 ・範読を聞きながら指で文章をたどる、繰り返し何度も ・毎日の宿題で漢字の書き取りに取り組ませ、一字一字丁寧に書けるように空書きと指なぞりに重点を置く。		
	算数	学区学力調査の結果から、各領域が全国平均と同等の数値であり、基礎的な力はほぼ身に付いている。 学「数と計算」領域については、全国平均を2%ほど下回る。学基礎的な力、活用力共に全国平均と同程度であるが、表現力については約2%下回る。記述による解答での正答率が低い。	・基礎的な計算はできるが、九九を覚えきれていない、時間の概念が身に付いていない児童もおり、学力の二極化が見られる。 ・自分の考えをもてない児童は、操作活動ができてそれを説明する語彙や表現力が伴っていない。	・毎日の宿題で計算問題や文章問題に取り組ませ、基礎基本の確実な定着を図る。 ・具体物・半具体物を用いた算数的活動を行い、徐々に抽象的な思考ができるようにしていく。 ・学習の中で操作活動や説明をする活動に取り組む。考えをもてない児童には、友達のを考えを書き写し、真似から学べるようにする。 ・友達の立てた式を説明するなど「式を読む」活動を取り入れ、表現力を身に付けさせる。		
4	国語	学学習に対する意欲が高い。新しく聞く言葉に関心を示し、意味や使い方を知らうと尋ねる児童が多い。 調領域「書くこと」について区平均よりおよそ10ポイント低い。 調漢字を書く力や語彙力に課題のある児童が多い。	・話をする時に、内容の中心をはっきりさせて話すことが難しい。また、聞き手は話を聞こうとする意識をもてない児童がいる。 ・言語に興味はあるものの、語彙力がやや乏しい。	・朝のスピーチなどで、テーマを決めて話させることで、必ず伝えたいことを落とさずに話せるようにさせる。また、聞き手にも感想や質問を話させるようにして、聞くことに集中できるようにする。 ・積極的に国語辞典を活用させる。また、初めて学んだ言語については、教室掲示をするなど常に目に触れ習得できるようにする。		
	算数	学じっくり考え、間違えを恐れずに発言する児童が多く、関心も高い。 調領域「数と計算」については、区平均よりおよそ4ポイント低い。中でもかけ算とわり算について低いことがわかる。	・プリント学習などで多くの計算問題があると、ケアレスミスが目立つ児童が多い。	・ワークシートや習熟プリントなどを行う際は、問題数を絞って、集中してミスなく解けるようにする。		

5	国語	<p>調 昨年度の区学力調査では、すべての領域で、全国平均を下回っており、全問題中全国平均との差が 10 ポイント以上が 45%、20 ポイント以上が 25%だった。</p> <p>学 言語事項の当該学年の漢字の読みについては差が 5%未満であったが、前学年の配当漢字の書きは 20 ポイント以上差があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の定着率が低い。 人の話を聞けない。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日漢字を家庭学習に出す。 ノートやプリント等、文字を使用する際に漢字を使うことを意識させる。 協働学習を通して、相手の意図を理解できたか確認する時間や、話の聴き方を指導する時間を設ける。 		
	算数	<p>調 昨年度の区学力調査では、すべての領域で、全国平均を下回っており、全問題中全国平均との差が 10 ポイント以上が 4 割、20 ポイント以上が 3 割であった。</p> <p>学 調数と計算領域の技能(わり算)、図形の知識は同程度の問題もあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 答えが出たことで満足してしまう児童が多い。 確かめや見直しをしない。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えを出すまでの過程について、互いの考えを伝えたり聞いたりする機会を授業で取り入れる。 時間をかけて、丁寧に取り組める家庭学習を出す。 四則演算の徹底のため、宿題で毎日計算問題を出す。 		
6	国語	<p>調 昨年度の区学力調査の結果からは、どの領域についてもすべて標準スコアを上回った。</p> <p>学 主語と述語が相対していないことがある。また、単語や短文での会話や作文が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力がやや乏しい。 作文などの書くことにおいても、スピーチなどの話すことにおいても、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を伸ばすために、読書の時間を少しでも確保する。 学習の中でグループ内や全体に向けてなど様々な場で発表する経験を通して、相手を意識した構成で話せるよう取り組ませる。 		
	算数	<p>調 昨年度の区学力調査の結果からは、どの領域についてもすべて標準スコアを上回った。</p> <p>学 公式は知っていても、計算ミスにより正答できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分度器の中に示された角の大きさを読み取ることが難しい。 途中式や、計算跡を消してしまうことにより、思考の整理ができない。また、作図においても、同様の様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 角度を測る前に、90° より大きい小さいかなど見積もりをさせる。 形式的な計算の手順だけでなく、図と対応させるなどして、視覚的にも理解させていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも意欲をもって取り組む児童が多い。 個人差が大きく、苦手意識の強い児童は自ら取り組むことが難しい。 知識理解の定着が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも意欲をもって取り組む児童が多い。 個人差が大きく、苦手意識の強い児童は自ら取り組むことが難しい。 知識理解の定着が難しい。 	<p>プリントやICTを活用し、児童がわかりやすい授業を工夫する。わかりにくい内容のものは児童の実態に合わせスモールステップで指導するようにする。</p>			
図工	<ul style="list-style-type: none"> 在籍児童数の変動により40人学級が生まれ、昨年度までとは授業形態が一部変わっている。32人収容の図工室に40人入れているので、その学習活動への影響は非常に大きいと言わざるを得ない。 就学前にはさみで紙を切る、折り紙を折るというような活動が激減し、小学生の技能低下を強く感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人数が多くなれば、私語も多くなる。図工は他教科と授業形態が異なり、何十分も黙って取り組むような活動ではない。いかに集中力を維持して活動するかが重要であり、課題でもある。 紙を切る、紙を折るといった手指で行う動作経験が少ないため、造形活動の中で同時に技能の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> じっくりと取り組ませることが大事はあるが、児童によっては飽きてきて、それがおしゃべりにつながることも多々あるので、教師からの指示を一定の時間ごとにコンパクトかつ小出しに出すことが必要となる。 造形活動を行う中で、基本的な技能の向上を目指した内容を適宜扱っていく。それが取組への関心や意欲、さらには安全にもつながっていく。 			
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習を楽しみにしている児童が多い。 布作品の製作は両手の手指を違う動きで使う必要があり、抵抗感を持つ児童も多数いる。 快適な生活のために、家庭には様々な仕事があることを認識していない児童がほとんどである。 興味のあること、やりたいことに飛びついてしまい、実現するためには計画的に取り組むことが必要だということを理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生は、調理や手縫いの基礎を学習させる。特に、次に使いやすくするために片づけは必要な手順であることを説明する。 6年生は、炒める調理で油を使う注意点を理解させる。 5・6年ともに、自分の課題だけに取り組み、班で協力して活動することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示や説明を聞いていない児童には、個別に対応する。また、班活動では、教えあうことも必要であることを伝える。 割り当てられた用具を大切に使い、清潔な状態で返却することを行わせる。 個人作業ではなく、班としての作業の仕上がりを目指すように指導する。 手縫いが苦手でも、時間をかけて根気よく取り組めば、作品は完成することを学習させる。 			
特支	<ul style="list-style-type: none"> 言葉でのやり取りや、コミュニケーション力に課題があり表現することに自信のない児童がいる。 場面を理解したり、数の操作や計算したりすることに課題をもつ児童が多く、個々の差も大きい。 刺激に弱いなどの感覚面での課題をもつ児童が多く、学習する環境への配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いて理解したりすることが難しい児童が多い。 個々の障害の特性により、学習面・生活面での差が大きく、一人一人の合わせた合理的配慮が必要である。 運動・感覚面での発達課題をもつ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なコミュニケーションの方法があることを日常的に指導し「伝わる楽しさ」や「聞いてわかる喜び」を味わわせながら、友達や先生と関わり合う授業づくりを行う。 家庭と連携しながら、個別指導計画や個別支援計画を作成し、個に応じた指導をティームティーチングで行う。 合科的な単元を通して、感覚や運動面の発達を促しながら、本来もっている力を伸ばしていく。 			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。